



校長講話

▷68◁

永池 啓子 横浜市立白幡小学校校長

教育活動において「体験と言葉」は最も重視したい視点

はこれです（大きな1枚の写真を提示）。

「どの時代も、人は、自然によって生かされている。この自然への尊敬、すなおな態度こそ21世紀への希望であり君たちへの期待でもある」と、司馬遼太郎氏は著書の中で子どもたちにメッセージを送っています。

大事なものは目に見えない

効果的です。例えば、「タンポポ」の絵本。「実は、地面の下を見ると、地面上の姿の5倍も6倍もある長い根がこんなに……（実物絵本を見せる）。雪の降る寒い冬もある時は人間から踏まれても負けないで春になると立派な花を咲かせ、今度は、高く背伸びして何百個もの綿毛を遠くまで飛ばすことができるんですね。」大事なものは、目に見えないことを伝えて結びにします。

自然体験の少なくなった都市部の学校でも、体験学習や修学旅行を通して、その一端の体験はできます。題材の探し方の一つとして紹介したい話です。

6年生と新潟体験学習に行ってきた。春山トレッキングの時、みんながとても驚いたことがあります。それ

光を得て栄養をつくり、「ふきのとう」に一生懸命送るんだ。だから、ふきのとうは、緑色の葉がたくさんなくても栄養たっぷりにつんたね。つくしも同じだよ」と。

人間には、目に見えない根のようなものはあるでしょう。目に見えないところで互いにつながり支え合っているのでしょうか。ぜひ、みんな考えてみてください。

低学年には、立体型絵本も

中深く、根でつながり合っている姿でした。「ふきのとうはいずれふきが変わる。つくしは成長するとすぎなに変わる」と間違った捉え方をしていた私は、恥ずかしいやら度肝を抜かれた思いになりました。先生は続けられました。

「冷たい雪の下の地中深く、互いが根でしっかりとつながり合っている『ふき』は、緑の葉を精いっぱい広げて太陽の